

○よろしければ、避難先の新住所を事務局へお知らせください。

九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.164

2011(平成23)年 6月11日(土)発行

大震災・大津波、
原発事故から
もう3か月!

＜お詫び＞■3月11日の大震災から3カ月。本会事務局員も市外に避難し、活動出来ない状況でした。お詫び申し上げます。今後もできることで活動していきます。■大津波で会員の宮西淳子さん(相馬市柏崎・高校美術科講師・55歳)が死去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

皆さんご無事でしたか？ご家族は？被害は？

3月11日(金)午後2時46分、M9の史上4位という大地震、そして「想定外の」大津波、さらに東京電力の福島第一原子力発電所の甚大で深刻な人災事故が現在も進行中です。

417名の本会会員の皆様もご家族もご無事だったでしょうか？事務局員も放射能を恐れ、市外に避難して3カ月間、活動もできませんでした。しかし現在、原発事故のため、日本国憲法で保障されている諸権利がいつも簡単に無視や軽視されて、基本的人権が蔑ろにされています。

そこで「大震災・大津波・原発事故・風評・憲法の無視など」について、会員の皆様から原稿を募集いたします。500文字以内で。事務局井上由美(〒975-0031南相馬市原町区錦町1-43 TEL0244-22-7511・FAX26-0892)まで。ハガキでもファックスでも結構です。Eメールは山崎健一(yamazakiken1@gmail.com)まで。匿名でもけっこうです。

まずもって、取りあえず、事務局員などの思いを掲載させていただきます。



3.11東日本大震災・大津波・原発事故・風評・・・私はこう思う ①

心よりお見舞いを申し上げます 「はらまち九条の会」会長・平田慶肇

この度の東日本大震災で被災された方々、加えて東京電力福島第一原発事故により被害を受け、既に避難されている方々、及び避難準備を強要されている方々に対し、心よりお見舞いを申し上げます。想定外の大津波で不幸にも亡くなられた方々、本当にお気の毒に思いますし、原発事故に関しては東電及び政府の対応の遅さにじれったさと憤りを覚えます。

我が「はらまち九条の会」は戦争を阻止するのが第一目標ですが、この原発事故も正に戦争そのものです。このままではこの相双地区は将来人の住めない「死の街」になりかねません。現実にはこの地は子どもの住める環境ではありません。一日も早い事故の収束と、事故の更なる拡大を防ぐためにも皆さんで一致協力して東京電力並びに政府に対して厳しい監視と更なる圧力をかけて行く必要があります。

5月3日まで届かなかった新聞のこと

事務局・早坂吉彦

3月11日、仙台空港より沖縄ツアーに出発。ほぼ九州上空で震災発生。以来、被災者となって東京に避難しています。4月16日より、一時帰原した折のことを書いておこうと思います。当時、物資も人も情報もほとんど入って来ない危機的状況で、桜井市長がテレビでそのことを訴えており、その中で大勢の市民が早朝から待っていて先を争って読んでいたのは『毎日新聞』と『福島民報』でした。市役所などに毎朝まとめて届けられたものでした。

一方、私が長年愛読していた『朝日新聞』は震災以来一度も入っていないのです。何ということかと思いつつ東京に戻って、早速本社販売担当や福島支局に電話しました。せめて他社と同じようにぜひ、と要請しましたが、全く相手にしてくれません。そして5月3日、今朝からやっと『朝日』が配達になったと知人がメールで知らせてくれました。折りしもその日、憲法記念日ということで、「天声人語」は例の神戸支局襲撃事件に関して、時代の風化に抗していつまでも「言い続けよう」と、ジャーナリズムの責務を高らかに表明しています。

けれども、もう一つ、より大事なことがあるのではと思います。言ったこと、書いたことを何としても読者の手元に届けること、それがジャーナリズムの使命ではないのか。原町区に関する限り、市民が最も必要とした時期にそれが果たされなかったのは残念というしかありません。

なお、この「天声人語」を読んだ直後、担当宛てに上記内容を記した手紙を送りましたが、今もって音沙汰なしです。(※このことは、6月5日号『朝日ジャーナル』の加藤典洋の文でも、新聞も配達されない南相馬市の震災直後の状況として、憤慨とともに記述されています。)

インターネット「はらまち九条の会」もご覧ください。
「意見」などの書き込みができるようになりました！
避難所から原町区に戻った会員大浦祥見さんが担当され、
会報の『九条はらまち』全号も見ることが出来ます。



正直で勇敢な努力を

事務局・石田賢二

「広島・長崎で、また沖縄で、人間として受忍できない苦しみを、人間がこうむったこと、それを記憶し続け、そして新しい世代につたえるために、正直で勇敢な努力をすることの大切さを思います」どなたの言葉であったか、大切な言葉として書きとめていた。2011年3月11日以降、そこに原発事故が加わった。国策としての戦争、国策としての原子力発電、共に苦しみ多くの被害を受け続けるのは国民である。

終戦と共に国民は、希望と自由を得た。生活の貧しさは現代の比ではなかった。今、生活の飢餓を訴える声は聞かれなくなった。明日知れぬ不安、希望のない自由を奪われた日々の生活がある。子ども達の教育と健康を考える家族は、散り散りになって生活している。様々な事由で生活の拠点を他に求められない家族は、子ども達の健康に不安を抱きながら地元に残るしかない。いずれにしろなにがしかの犠牲を強いられストレスを抱えている。

この地から乳児の泣き声が消え、児童のはしゃぐ声が消えて久しい。九条を守る運動を通して、正直で勇敢な努力をすることの大切さを学んできた。放射能とダイオキシンのリスクに立ち向かうことも、同じように大切なことではなかったか。



家族が別れてしまい悲しい

事務局・井上由美

3月15日川俣町へ、その後山形市に避難し、2番目の孫が4月1日に誕生。でも、息子の嫁と孫は遠い四国の愛媛の実家へ行き、私と夫と息子は4月26日に原町に戻り、翌日から薬局を再開店しました。

家族がバラバラに別れて生活しなければならず、本当に悲しい。

「九条の会」会員さんにも会えず、皆さんどうしているか心配です。

「はらまち九条の会」総会も開ける状況ではありませんし、どのように活動すればよいのか思案しています。現在の会費残高175,965円を有効に、取りあえず、会報発行などでつかわせていただきたいと話合っています。



日本人が自ら原爆を投下したような 事務局・山崎健一

今から43年前の1968（昭和43）年4月、私は高校教員になったその年に建設中の福島第一原子力発電所を、大熊町大沢の高台から見学した。何台ものダンプカーが慌ただしく行き来し、海にせり出した標高35mの台地をわざわざ25mも削って、標高10mの地点に発電所を設置していた。削られた山肌の赤茶けた様子をよく覚えていて。冷却用海水を容易に汲み上げ、船からの楽な荷揚げなど経済効率優先に考え、津波や地震対策は二の次だったのだ。

43年間、担当の社会科の授業の中では必ず、「原発は特に津波が怖いぞ。逃げるしかない。避難の道路を作れ。」「安全なら東京湾に原発を作るべきだ」と生徒に話してきた。今回の事故は東電の傲慢さから、日本人が日本人の頭の上に原爆を落としたようなものだ。ヒロシマやナガサキ、第五福龍丸事件から何も学んでいない。また、原発を支持し推進した人々が、事故後には反省も謝罪もなく、手のひらを返したように被害者然として怒っているが、滑稽だ。そして「安全神話」を流し続けたマスメディアの罪も大きいと思う。

私は1歳4ヶ月の孫をかかえ、放射能を怖れて新潟県長岡市、横浜、そして3月末からずっと川崎市の住宅で避難生活を送っています。不本意な生活を強いられ、国家権力により「憲法」の諸権利は蔑ろにされています。お人好しで時代ごとに軽視され続けてきた東北人は、もっと本気で怒らなければならないと思っています。

原発の空のしかかるふるさとのここにいてはななくて水飲む（福島市）美原凍子・四／十八
わが町はチェルノブイリとなり果てし帰るあてなき避難民となる（富岡町・東京都にて）半杭蛭子・四／十八
ふるさととは無音無人の町になり地の果てのごと遠くなりたり（富岡町・東京都にて）半杭蛭子・五／二十三
被曝検査受けねば避難受けつけぬと雨を濡れきし親子帰る（福島市・高校教師）中村晋・四／二十四
南相馬離れて三度居所を変え日毎つのは原発憎し（小高区・横濱市にて）荒川澄・五／二
南相馬へ二度目の帰宅日帰りで猫一匹の頭撫で来ぬ（小高区・横濱市にて）荒川澄・六／二七
放射能を怖れ今年食えずをり背戸の筈ただ見守まゐるのみ（新地町・新地九条の会代表）目黒美津英・六／二七
里人さびとの鎮守のわれは別当ぞ原発事故といへど避難はできず（新地町）目黒美津英・五／三十
いなさ吹けば放射線量増すという真野の萱原かやはら夏は来向かう（下野市）若島安子・五／十六・「いなさ」は南東の風



「はらまち九条の会」事務局連絡先

○会長：平田慶肇 TEL0244-24-1211

○会計：井上由美 〒975-0031南相馬市原町区錦町1-43
TEL22-7511・FAX26-0892 ○石田賢二 TEL22-4037

○事務局長：山崎健一 TEL090-7527-5453（神奈川県川崎市に避難中） ○早坂吉彦・番場恵子（市外に避難中）



○よろしければ避難先の新住所を事務局にお知らせください○この会報は震災前の住所で郵送しますが、皆様へ届くことと、一日も早い原発の収束を願っています○この会報へ、皆様の投稿、声を今この時です、お寄せください。